2015年3月25日

各　位

積水ハウス株式会社

ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ･ｲﾝ･ｻﾞ･ﾀﾞｰｸ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ

ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」2周年記念プログラム 4月26日から第8回≪『2』という数字を家族で対話。≫開催 3月26日、チケット販売開始

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部俊則、以下「積水ハウス」）は、情報受発信拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都渋谷区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）「対話のある家」の新プログラム≪『2』という数字を家族で対話。≫を4月26日（日）から7月27日（月）まで開催します。実施に先立ち、3月26日（木）正午よりWEBでのチケット販売を開始します。

新プログラム≪『2』という数字を家族で対話。≫は、4月末にオープンから2年となる「住ムフムラボ」及びDID「対話のある家」の2周年記念プログラムとして実施します。

光が完全に遮断された「純度100％の暗闇」の中にグループで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、住まいにおける様々な生活シーンを体験しながら、例えば「入学してから2年」「仕事を始めて2年」「結婚2年目」など、『2』にまつわる様々なことについて、グループを「家族」に見立てて対話していただきます。暗闇体験と、そこで出会った「家族」との対話を通じて、新しい発見や気付きを得ていただけます。『2』という数字は、実はすごい数字です。「1人」ではできないけれど、「2人」ではできることが数多くあります。相談、遊び、ケンカ、そして家族にもなれるのです。また、1年では、わからなかったことが、2年間経験を重ねることで気付いたり、わかったりすることもあります。

DID「対話のある家」は、2013年4月の開始から約7,300人が体験。対話の大切さや人の温かさ、視覚以外の感覚の可能性、五感で感じる心地よさ、家族の絆など、新たな発見や気付きがあったという感動の声が寄せられています。

＜脳科学者 茂木健一郎氏も体験＞

2月19日（木）、茂木 健一郎氏に「住ムフムラボ」内のDID「対話のある家」を体験いただきました。

人が感じる「心地よさ」というのは、視覚情報のみから得られるものではありません。例えば、家具や衣服もデザインなどの見た目だけではなく、触覚などの身体感覚から得る触り心地の良さなどが、大きな影響を与えています。

DID「対話のある家」では、真っ暗闇で視覚に頼らない体験を通じて、普段は気付かない感覚の使い方や自身の好みなど、様々な発見があります。私たちにはない能力を持つ暗闇のエキスパートであるアテンドとの交流も大変興味深いです。暗闇の中は人の声や温もりが頼り。そのために、「きずな」、「冗長さ」、「半径5メートル」がとても大事です。皆さんの新たな発見が得られる機会となることを期待しています。

本件に関するお問合せ
積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL06-6440-3021　（東京）TEL03-5575-1740

■ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」第8回
2周年記念プログラム≪『2』という数字を家族で対話。≫概要

・開催場所　：グランフロント大阪　北館ナレッジキャピタル4階
積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」
・開催期間　：**2015年4月26日（日）～7月27日（月）**
≪『2』という数字を家族で対話。≫
・チケット販売　：2015年3月26日（木）正午から販売開始
・定 休 日　：火曜日・水曜日　※5月5日（火・祝）は営業
・所要時間　：70分
・参加人数　：1グループ・6人まで（完全予約制）
・参加料金　：大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円　（税込）
・購入方法　：ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約
http://www.dialoginthedark.com/
（住ムフムラボHPにもリンクを掲載しております）
・「対話のある家」お問い合わせ事務局：　0570-006-506　（IP電話からは0986-46-2672）
（火曜日～土曜日12～18時、月曜日・日曜日・祝日休業）

■ダイアログ・イン・ザ・ダークについて

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により生まれました。 参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、グループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャルエンターテインメント」です。

これまで世界約32カ国・130都市で開催され800万人以上が体験。日本では、1999年から東京・外苑前の会場で開催しています。「住ムフムラボ」での「対話のある家」は、DIDとの 「共創」 による関西初の長期開催プログラムです。

■DIDとの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。

その一環として、「感じる力」、「関係性の回復」、「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」は、光が完全に遮断された「純度100％の暗闇」の中にグループで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、住まいにおける様々な生活シーンを体験します。日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供しています。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究や、「コミュニケーション・チームビルディング・リーダーシップ」の養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。

■これまでの開催実績

・開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計285日間（2015年3月現在）

・参加者数：7,301人／性別：男性43%、女性57%

・年代：10代以下4%、10代2%、20代29%、30代30%、40代22%、50代10%、60代以上3%

・「僕たちの夏やすみ」「まっくらな中で健康な家づくりにチャレンジ！」「誰かの幸せを願うクリスマス」など季節ごとに、毎回異なるプログラムで実施しています。

＜アンケート結果＞　～口コミやリピーターも増加～

・「また、参加したいですか？」との問いには、参加者の88%が「はい」と回答しています。来場のきっかけの1位は「知人や家族のすすめ」が30%を占め、口コミでの来場が最も多い一方、リピーターが増加（約15%）、4回目、5回目の体験の方もおられます。

・「あなたにとって「家」とは、なんですか？」の問いに、「安心・安全」（19%）、「落ち着く、ほっとする、休まる」「あたたかい、温もり」「安らぎ、癒し」「リラックス、くつろぐ」（共に11%）、「家族」（9%）といったキーワードが並びます。

＜前回までの体験者の声＞

・暗闇の中の対話には普段とは違った何かがあった。そして、それをいかにおろそかにしていたかがわかった。（38歳・男性）

・2回目です。本当に色々考えます。感動からか泣けてもきます。何故だろう？（44歳・女性）

・手で触らずに音で感じたりするのは、学校で学習できないので良い経験になりました。（9歳・男子）

・普段、何気なくつないでいる子供の手だけど、実は自分が安心させてもらっていたことに気付きました。これからは目で見て気がついたものを、しっかり声や表情で伝えたいです。（37歳・女性）

■教育関係機関や企業など、「学びの場」としても活用されています。

「対話のある家」は、多様性を尊重し“誰もが暮らしやすい社会”の実現に向けたプログラムとなっています。暗闇における視覚障がい者（アテンド）の案内のもと、チーム内で互いに協力しあいながら、五感を使い、思いやりの大切さに気づくことができる、様々な“学びの場”として利用いただいています。

＜教員・学生の体験者の声＞

・最初は不安でいっぱいになりましたが、他の参加者の声を聞いたり、手を触ったりしているうちに、新しいものを発見するのが楽しくなりました。（20歳・女性・学生）

・暗い中では、対話も生まれ、想像力を働かせることができ、面白かったです。（21歳・女性・学生）

・視覚障がい児童と接することあります。子ども達がどのように感覚を使っているかが、わずかですが、わかりました。（56歳・男性・教員）

・暗いことが恐いのではなくて、暗い中で他人が見えないことが恐いのだと思いました。見る事だけではなくて、声をかけたり手を繋いだり、もっとすてきな方法がたくさんあるんですね。（42歳・女性・大学教員）

・学生と教員の役割ではなく対等な関係になれたのが良かったです。（56歳・男性・大学教員）

■暗闇のエキスパート　＜アテンドの声＞

【ぐっち：谷口真大】台所から聴こえる夕飯の支度の音、お父さんのいびき、おばあちゃんの家のにおい。そんな何気ないどこにでもある日常が特別に変わる瞬間を、初めて出会った掛け替えのない家族と日々過ごしています。家族と一緒に過ごす時間の大切さは、誰にでもあるからこそ、そこにしかないもの。そんな温かさを、毎日思い出にしています。

【けいたん：辻岡恵子】ワクワクとドキドキで帰る家。暗闇の中で出会うにこやかな笑顔。そこには初めて出会う家族なのに、何だか懐かしい空間が広がるテーブルを囲むと自然と会話が生まれ、温かさと五感の豊かさに包まれます。今日はどんな家族と出会えるだろう。この家族の豊かさがそれぞれの生活を豊かにしてくれることを願いながら、今日もお迎えしたいと思います。

【たえちゃん：北村多恵】輪番停電中の友人の言葉。「電気が止まると家の中ってこんなに静かなんだ」。不便と感じられるその時間には、会話は密に、動きには他者への思いやりが溢れていました。でも、これ、本当はいつもの生活の中にあるんです。暗闇はそんな「本来一番近くにある愛しいもの」をやさしく丁寧に感じさせてくれる場。対話のある家は、「目に見えない尊い宝物」を共有できる素敵なお家です。